

2 令和6年度 各教科科目一覧

①教科名 国語

教科学習の目的・ねらい

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。

受講条件・順序に関するルール

科目名	単位数	必履修	受講条件・順序
現代の国語 標準	2	○	
言語文化 標準	2	○	
論理国語 標準	2		現代の国語及び言語文化(基礎または標準)を修得していること。
論理国語 応用	2		論理国語(標準)を修得していること。
文学国語 標準	2		現代の国語及び言語文化(基礎または標準)を修得していること。
文学国語 応用	2		文学国語(標準)を修得していること。
国語表現 標準	2		現代の国語及び言語文化(基礎または標準)を修得していること。
国語表現 応用	2		国語表現(標準)を修得していること。
古典探究 標準	2		現代の国語及び言語文化(基礎または標準)を修得していること。
古典探究 応用	2		古典探究(標準)を修得していること。

※ 必履修科目→○ 選択必履修科目→△(受講条件・順序を確認) 選択科目→空欄

※ 令和3年度以前入学生は、教育課程が異なります。

留意事項

・必履修科目の単位修得後に、その他の科目を登録できます。
 ・グレードの異なる同一名の講座を同時受講することはできません。
 ・旧課程生で、必履修科目(国語総合)を履修している場合には、講座名の異なる新課程講座を重ねて受講することができます。
 (例)国語総合(4単位修得済み)→論理国語(標準)を受講可

②教科名 地理歴史

教科学習の目的・ねらい

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

受講条件・順序に関するルール

科目名	単位数	必履修	受講条件・順序
地理総合	2	○	
地理探究 標準	4		地理総合を修得していること。
地理探究 発展	2		地理探究(標準)を修得していること。
歴史総合	2	○	
日本史探究 標準	4		歴史総合を修得していること。
日本史探究 発展	2		日本史探究(標準)を修得していること。
世界史探究 標準	4		歴史総合を修得していること。
世界史探究 発展	2		世界史探究(標準)を修得していること。
教養地理歴史 標準	2		
教養地理歴史 発展	2		教養地理歴史(標準)を修得していることが望ましい。

※ 必履修科目→○ 選択必履修科目→△(受講条件・順序を確認) 選択科目→空欄

※ 令和3年度以前入学生は、教育課程が異なります。

留意事項

- ・「○○総合」の単位修得後に「○○探究(標準)」の講座を受講することができます。
- ・旧課程生は、新課程生と同じルールで、新課程の講座を受講することができます。
(例) 地理総合(単位修得後)→地理探究(標準)を受講可

④教科名 数学

教科学習の目的・ねらい

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

受講条件・順序に関するルール

科目名	単位数	必履修	受講条件・順序
数学Ⅰ 基礎	4	○	
数学Ⅰ 標準	4	○	数学A(標準)を同時受講すること。
数学Ⅱ 基礎	4		数学Ⅰ(基礎または標準)を修得していること。
数学Ⅱ 標準	4		数学Ⅰ(標準)、数学A(標準)を修得していること。数学B(標準)と同時受講すること。
数学Ⅱ 応用	2		数学Ⅱ(標準)を修得していること。数学A(応用)及び数学B(応用)との同時受講が望ましい。
数学Ⅲ 発展	4		数学Ⅱ(標準)、数学B(標準)を修得していること。数学Ⅲ(応用)と同時受講すること。
数学Ⅲ 応用	2		数学Ⅱ(標準)、数学B(標準)を修得していること。数学Ⅲ(発展)と同時受講すること。
数学A 標準	2		
数学A 応用	2		数学Ⅰ(標準)、数学A(標準)を修得していること。
数学B 標準	2		数学Ⅰ(標準)、数学A(標準)を修得していること。数学Ⅱ(標準)と同時受講すること。
数学B 応用	2		数学B(標準)を修得していること。
数学C 標準	2		数学A(標準)を修得していることが望ましい。
数学C 応用	2		数学C(標準)と同時受講または修得後に受講すること。
教養数学 標準	2		
教養数学 発展	2		教養数学(標準)を修得していることが望ましい。

※ 必履修科目→○ 選択必履修科目→△(受講条件・順序を確認) 選択科目→空欄

※ 令和3年度以前入学生は、教育課程が異なります。

留意事項

- ・科目名にⅠ・Ⅱ・Ⅲとついているものは、この順に履修します。
(例)「数学Ⅱ基礎」履修後に「数学Ⅰ標準」の履修は不可。
- ・原則同時受講の講座があります。シラバス詳細で確認してください。

⑤教科名 理科

教科学習の目的・ねらい

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

受講条件・順序に関するルール

科目名	単位数	必履修	受講条件・順序
科学と人間生活	2	△	「科学と人間生活と〇〇基礎(標準)1科目」または「〇〇基礎(標準)3科目」を受講すること。(必履修)
物理基礎 標準	2	△	「科学と人間生活と〇〇基礎(標準)1科目」または「〇〇基礎(標準)3科目」を受講すること。(必履修)
物理基礎 応用	2		物理基礎(標準)を修得していること。
物理 発展	4		物理基礎(標準)を修得していること。
物理 応用	2		物理(発展)と同時受講または修得後に受講すること。
化学基礎 標準	2	△	「科学と人間生活と〇〇基礎(標準)1科目」または「〇〇基礎(標準)3科目」を受講すること。(必履修)
化学基礎 応用	2		化学基礎(標準)を修得していること。
化学 発展	4		化学基礎(標準)を修得していること。
化学 応用	2		化学(発展)と同時受講または修得後に受講すること。
生物基礎 標準	2	△	「科学と人間生活と〇〇基礎(標準)1科目」または「〇〇基礎(標準)3科目」を受講すること。(必履修)
生物基礎 応用	2		生物基礎(標準)を修得していること。
生物 発展	4		生物基礎(標準)を修得していること。
生物 応用	2		生物(発展)と同時受講または修得後に受講すること。
教養理科 標準	2		
教養理科 発展	2		教養理科(標準)を修得していることが望ましい。

※ 必履修科目→○ 選択必履修科目→△(受講条件・順序を確認) 選択科目→空欄

※ 令和3年度以前入学生は、教育課程が異なります。

留意事項

- ・必履修科目の履修方法
「科学と人間生活(基礎)」かつ「〇〇基礎(基礎)」のうち1科目
または「〇〇基礎(基礎)」3科目
- ・「〇〇基礎(基礎)」の単位取得後、「〇〇(発展)」を受講することができます。
- ・応用講座は、卒年で受講してください。

⑦教科名 外国語

教科学習の目的・ねらい

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。

受講条件・順序に関するルール

科目名	単位数	必履修	受講条件・順序
英語コミュニケーションⅠ 基礎	4	○	} どちらか一方のみ
英語コミュニケーションⅠ 標準	4	○	
英語コミュニケーションⅡ 基礎	4		英語コミュニケーションⅠ（基礎または標準）を修得していること。
英語コミュニケーションⅡ 標準	4		英語コミュニケーションⅠ（標準）を修得していること。
英語コミュニケーションⅡ 応用	2		英語コミュニケーションⅠ（標準）を修得していること。
英語コミュニケーションⅢ 標準	2		英語コミュニケーションⅡ（標準）を修得していること。
英語コミュニケーションⅢ 発展	4		英語コミュニケーションⅡ（標準）を修得していること。
英語コミュニケーションⅢ 応用	2		英語コミュニケーションⅡ（標準）を修得していること。
論理・表現Ⅰ 標準	2		英語コミュニケーションⅠ（標準）との同時受講が望ましい。
論理・表現Ⅱ 標準	2		論理・表現Ⅰを修得していること。
論理・表現Ⅱ 発展	2		論理・表現Ⅰを修得していること。
論理・表現Ⅲ 発展	2		論理・表現Ⅱ（標準または発展）を修得していること。
論理・表現Ⅲ 応用	2		論理・表現Ⅱ（標準または発展）を修得していること。

※ 必履修科目→○ 選択必履修科目→△（受講条件・順序を確認） 選択科目→空欄

※ 令和3年度以前入学生は、教育課程が異なります。

留意事項

・科目名にⅠ・Ⅱ・Ⅲとついているものは、この順に履修します。

（例）「英語コミュニケーションⅡ 基礎」履修後に「英語コミュニケーションⅠ 標準」の履修は不可。

・旧課程生は、必履修科目（コミュニケーション英語Ⅰ）の単位修得後は、講座名の異なる新課程講座を重ねて受講することができます。

（例）コミュニケーション英語Ⅰ（4単位修得済み）→英語コミュニケーションⅡを受講可

⑧教科名 芸術

教科学習の目的・ねらい

芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。

受講条件・順序に関するルール

科目名	単位数	必履修	受講条件・順序
音楽Ⅰ	2	△	音楽Ⅰ、美術Ⅰ、書道Ⅰの中からⅠ科目履修すること。(必履修)
音楽Ⅱ	2		音楽Ⅰを修得していること。
美術Ⅰ	2	△	音楽Ⅰ、美術Ⅰ、書道Ⅰの中からⅠ科目履修すること。(必履修)
美術Ⅱ	2		美術Ⅰを修得していること。
書道Ⅰ	2	△	音楽Ⅰ、美術Ⅰ、書道Ⅰの中からⅠ科目履修すること。(必履修)
書道Ⅱ	2		書道Ⅰを修得していること。
書道Ⅲ	2		書道Ⅱを修得していること。
生活の中の書 標準	2		
生活の中の書 発展	2		生活の中の書(標準)を修得していることが望ましい。

※ 必履修科目→○ 選択必履修科目→△(受講条件・順序を確認) 選択科目→空欄

※ 令和3年度以前入学生は、教育課程が異なります。

留意事項

- ・必履修科目(Ⅰ)の履修を終えて、次年度からその上位科目(Ⅱ)を受講することができます。
- ・教材費がかかります。

⑩教科名 情報・商業

教科学習の目的・ねらい

情報

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を育成することを目指す。

商業

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。

受講条件・順序に関するルール

科目名	単位数	必履修	受講条件・順序
情報Ⅰ	2	○	
情報Ⅱ	2		情報Ⅰを修得していること。
ビジネス基礎	2		
ビジネスコミュニケーション	2		
マーケティング	2		情報Ⅰを履修していることが望ましい。
簿記	4		
原価計算Ⅰ	4		簿記を履修していること。
財務会計Ⅰ	4		簿記を履修していること。
情報処理	2		情報Ⅰを履修していることが望ましい。

※ 必履修科目→○ 選択必履修科目→△(受講条件・順序を確認) 選択科目→空欄

※ 令和3年度以前入学生は、教育課程が異なります。

留意事項

- ・パソコンの実習を伴う科目は「情報Ⅰ(基礎)」の単位修得後に受講してください。
- ・「簿記(標準)」の単位修得後に、「財務会計Ⅰ」及び「原価計算」を受講できます。

